

12月のHUGだより

情報提供者：やましろ小児科 山城武夫

今月のテーマ：インフルエンザ

新型コロナ第5波は急速に減少し、このまま収束するのではとの変容ですが、腰を据えて経過を見ていく必要があります。また、例年のインフルエンザ流行との関連性も気になります。毎年、国内では1月～2月に流行のピークを迎えますが、昨年の流行は世界中で激減し「インフルエンザの少ない年」となりました。



インフルエンザにはA型、B型、C型があります。かぜ症状すなわち高熱、全身倦怠感、咳、鼻水（新型コロナ感染症も同様の症状があり、加えて、味覚障害、臭覚障害があります。）などがあります。10月の海外感染症流行をみてみますと、全世界では新型コロナ感染症、季節性インフルエンザは北半球の温帯地域ではB型が、中米、熱帯アフリカ、南アジアでもB型が散見されます。ヨーロッパのクロアチアではA型（H3）の小規模流行がみられているそうです。中国ではH5N6の鳥インフルエンザが見られ、大多数は市場での家禽類との接触歴があるようです。インドではジカウイルス感染症（蚊がウイルスを媒介し、妊婦さんがかかると胎児に小頭症などが起こります。）、米国ではアフガニスタンからの入国者で麻疹が発生しています。



見られます。ヨーロッパのクロアチアではA型（H3）の小規模流行がみられているそうです。中国ではH5N6の鳥インフルエンザが見られ、大多数は市場での家禽類との接触歴があるようです。インドではジカウイルス感染症（蚊がウイルスを媒介し、妊婦さんがかかると胎児に小頭症などが起こります。）、米国ではアフガニスタンからの入国者で麻疹が発生しています。

インフルエンザの流行が見られないのは新型コロナ感染症での予防として、3密、マスク、手洗い、が感染症予防の共通のツールであるからと考えられます。

もう一度整理しますとインフルエンザウイルスの暴露を受けてから1～3日間ほどの潜伏期間の後に発熱（38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などが現れ、鼻水、咳などの上気道症状がこれに続き、合併症（気管支炎、中耳炎、熱性けいれん、インフルエンザ脳症、脳炎など）がなければ約1週間で軽快します。

治療は作用機序・使用方法（服薬・吸入・点滴）の異なる抗ウイルス剤が数種類ありますので、かかりつけ医と相談して使用の判断を受けましょう。

予防には3密回避、マスクの着用、手洗い、うがいです。また、室内の定期的な換気、加湿（湿度50～60%）も大切です。予防接種はA型2種類（H1N1・H3N2）、B型2種類の混合ワクチンが予定されています。11月～12月中頃までに接種しましょう。

特に昨年は流行がありませんでしたので地域の免疫力が低下していますので流行の恐れがあります。十分注意しましょう。

